

一般質問通告書

受領日時 令和8年2月17日

午前8時40分

3番 氏名 伊藤 信子

質問項目	質問の要旨
1.地域医療並びに緊急療養について	<p>(1) ドクターカーの導入について</p> <p>本町において、救急車の出動要請が多く、救急体制への負担が大きくなっている状況にあると認識している。そのような中、ドクターカーを整備・運用することで医師が現場に出向き、初期対応を行うことが可能となり、結果として、救急車の出動要請の軽減につながるのではないかと考えている。医師数の減少により、医療体制の維持に苦慮している中で、医療資源を有効にする方策の一つとしてドクターカーの活用を検討してもよいのではないかと考えている。本町において、ドクターカーの導入について、検討された経緯はあるのか。救急体制の負担軽減・医師不足の現状を町として、どのように考えているのか。</p> <p>(2) 終末期医療・長期療養型医療について</p> <p>人口減少と高齢化が進み、終末期医療・長期療養のニーズが今後高まっていく。厚生連病院は、地域にとって重要な医療拠点だが、病院規模は小さく、療養病床や終末期医療が十分とは言えない。本町および厚生連病院において、療養型病棟の整備や終末期医療体制の充実について、検討された経緯はあるのか。高齢化の進行を踏まえ、どのような医療体制を目指していくのか、町の考えは。</p>
2. 籾殻の処理について	<p>(1) 町内の農家から、稲作後に発生する籾殻の処理について、大きな困りごととして、声が寄せられている。環境保全の観点から籾殻の焼却が禁止、または厳しく制限されている。しかし、一方で町内には籾殻を受け入れる処理施設や集積センターがなく、農家個々に対応を迫られている。こうした環境対策と農業現場の実情との間に生じている課題を町として、どのように現状を認識しているのか。</p> <p>(2) 環境保全のために焼却を制限する以上、農家が適切に籾殻処理する代替手段を示すことも行政の重要な役割の一つではないかと考えている。農業経営の継続と環境対策をどのように両立させていくのか、町の考えは。</p> <p>(3) 籾殻は、単なる廃棄物ではなく、堆肥化や資源の活用</p>

	<p>など環境負担を低減する可能性があるものだ。今後籾殻の一時集積や共同処理、あるいは広域的な連携も含め、環境に配慮した処理方法について町として検討を行うべきではないか。</p>
3. 農業機械の購入助成について	<p>9月定例会において、農業機械の購入に対する助成について一般質問をした。農業者の高齢化や機械更新に伴う経済的負担の増大を踏まえ、町として支援の可能性について提案したところである。</p> <p>この質問以降、本町において農業機械購入に対する助成についてどのような対応や検討がなされてきたか。現在の進捗状況は。</p>